

## イネ内穎褐変病

### 1 病原菌の特徴

- (1) イネ内穎褐変病はおもに籾の内穎が褐変する細菌性の病害です。病原細菌は*Erwinia herbicola*です。
- (2) 病原細菌は自然界に広く分布しイネ体のどこにも存在しています。普段は何ら害をもたらしません、菌の生育に好適な環境(出穂期の降雨と出穂後の高温条件)となった場合のみ本病を引き起こすと考えられています。

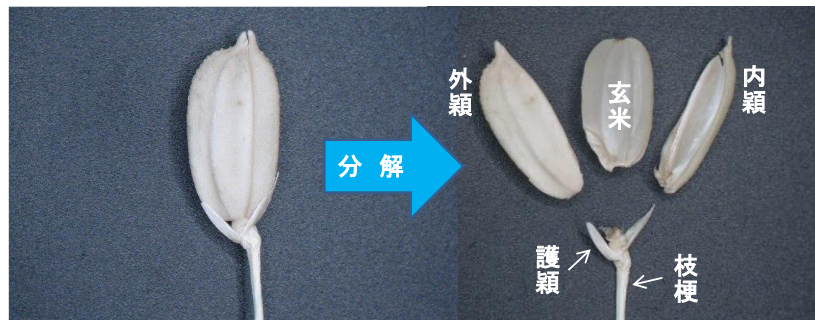


写真1 籾

### 2 被害の様子

- (1) 内穎褐変病は、イネの籾に発生します。
- (2) 出穂数日後から内穎の一部が褐変し始め、その後内穎全体が褐変します。
- (3) 外穎も同時に褐変する場合がありますが、外穎のみが褐変することはほとんどありません。護穎、枝梗は褐変しません。
- (4) 褐変は出穂後早い時期ほど鮮明であり、登熟が進むにつれてやや退色しますが、収穫期まで褐変は残ります。
- (5) 発病籾の玄米は茶米、死米など品質低下が認められます。
- (6) これまで収量への影響は少ないとされてきましたが、近年の発病状況を見ると収量にも影響しているものと考えられます。



写真2 イネ内穎褐変病の発病状況(糊熟期)



写真3 イネ内穎褐変病の発病状況(収穫後)

### 3 発生について

#### (1) 発生条件

- ア 開花と感染には密接な関係があると言われ、出穂 2～3 日目が主要な感染時期と考えられます。
- イ 出穂期の降雨と出穂後の高温条件(30℃以上)が発生を助長すると考えられています。
- ウ 作期及び品種と発生との関係は明確ではありませんが、普通植のキヌヒカリに発生が多い傾向が認められます。

#### (2) 発生消長

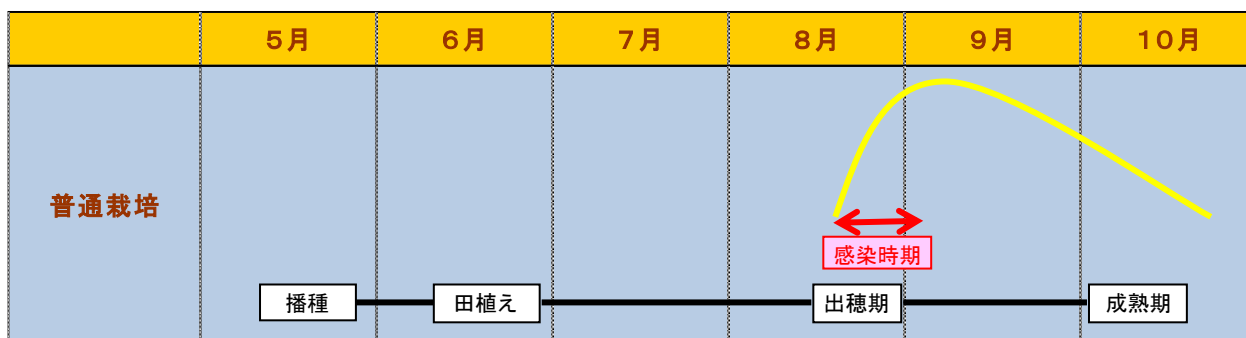


図1 イネ内穎褐変病の発生消長(埼玉県で発生の多い普通栽培の例)

### 4 防除時期と防除方法

発生してからの薬剤散布は効果がないので、出穂期から開花期に高温や降雨に合うと予想される場合は、穂ばらみ期から穂揃期に登録のある農薬で防除しましょう。

#### 薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当 TEL048-536-0409



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県